

展開のきっかけ

竹って面白い

幸田町立大草保育園（愛知県額田郡）

[5歳児]

<事前の様子> 地域の竹林で、子どもたちは自由に活動できるようになった。保育者は“素敵な経験ができる”と確信し、子どもたちの発想による「見て・触れて・感じて・発見」する体験を大切に。竹掘りでは見た目に関心をもち竹を掘る(味のことを考える大人の発想とは違う)。そのため、竹に関する興味が湧き、疑問に思ったり、発見したり、不思議な体験をしたりする活動を展開することができた。

	子どもの様子		読み取り	
感じる・考える	筍の土の上や下の様子、掘り出す難しさを体感する 4月下旬 ・どの筍がいいのかわからずウロウロする。10～20cm程見えていて皮が黒く毛並みのよい筍を掘る。 ・土の固さや感触を感じながら掘る。どこをどのくらい掘るといいのか考え、悩みながら掘る。筍を押ししたり引っ張ったり、折れないように注意したりしながら掘り出す。 ・A児は小さな筍はかわいそうだと思い、掘るのを止める。①		* 掘り方や場所、深さ、力加減など試行錯誤して掘る。 * いろいろな筍があることで、「まだ伸びる」「今は掘らない」という思いをもったり、伸びることを楽しみにしたりする。	
感じる・気付く・想像する	生長を感じる（背比べ） 5月 ・筍掘りで親指の先程顔をしていた筍の生長を気にして「大きくなったかな?」と観る。「筍大きくなったよ。私のここ位」自分の膝を指差す。 ・A児は「こっちの見て、これは背と同じ」いろいろな長さの筍を、自分の体を使って測定する。「これはA児抜かして、でっかいね」竹の皮は着ているけれど、すっかり大きく生長した筍を、見上げている。 ・(2日後)「この前より、大きくなったね。足だったのに、ここになった」A児は自分の腰の辺りを指差しながら、背比べする。「筍はどこが伸びているのかな?」新たな疑問をもつ。	中に水がある（竹水発見） 5月 ・若い竹の穴に水が溜まっているのを見つける。「この水、どこから来たの?」「雨じゃない?」「竹の蜜と思う」と話題になる。 ・園長先生から竹水は飲めることを教わり「竹水って何?」「甘い?」「飲んでみたい」と話す。 ・(6月) 竹水のある竹を揺らし、耳を当てて聞く。聞いた音を思い思いに表し、いろいろな音がすることを覚える。舐めて「甘いよ」「甘くて、青い味」「へんな味」「ちよっと甘い」と味わう。 ・3・4歳児のために竹を2本持ち帰る。	* 竹の生長の速さを感じる。 * 「掘るの、かわいそう」という前回のA児の①の思いがきっかけになり、竹の生長スピードを感じられる活動につながった。	
疑問・確かめる	どこが伸びるの?（竹に描く） ・全員が好きな竹に思い思いに絵を描く。竹という珍しい素材に絵が描けるので、どの子も大喜び、所狭しと描く。A児も楽しんで描いている。 ・後日確かめに行く。絵に変化がなく、「どこが伸びたのか?」は、わからない。	この水は何?（竹の不思議） ・「ん～。ただの水」「甘い」「苦い」「優しい味」「竹の匂いがする」「この間舐めた水より、甘くないね」「もっと待つと、甘くなるんじゃない?」などと話す。 ・竹水を2節分残しておくが、2日後にはなくなってしまふ。	* “竹水”とは、「どんなふうの水が溜まるのか?」「どの位溜まるのか?」「どんな味がするのか?」とても楽しみにしていた。そして、竹水を飲んだり音や水の様子を見たりして、「水がどこからきたのか?」「なぜ竹水が溜まったのか?」考えたがわからなかった。	
親しむ	<竹林で> 竹がスカートはいている。順番に何かがついてる。 竹の皮のお弁当 竹で太鼓 竹炭 釜体験	<保育園で> 竹の飯盒 お湯を沸かす お皿と箸 竹かんてん 流しうどん	<竹水で> (お茶パックでこして) ご飯を炊く(ピカピカしている) 白玉団子(いつもと同じなのに、ドロドロに溶けてしまう)	考察 竹は不思議な植物で、子どもたちは「面白い」という活動を重ねた。筍は食すことができ、水を貯め、生長してからもいろいろな物に利用できることがわかり、楽しんだ。

ポイント

「小さな筍はかわいそうだ」と思って選ばなかったり、大きさや皮の様子など興味を引く筍を試行錯誤して掘り出したりしています。幼児らしい発想や観察・感覚で筍掘りをし、土や筍の様子を体感しているため、その後も筍の生長や竹になる様子に気付きや疑問をもち、幼児らしい発想で意欲的にかかわり「科学する心」が育まれる体験をしています。